



鉄道高架化通信



第41号

令和6年5月発行

発行：豊田市建設部街路課

～5か所目の工事用通路（搬入口）の運用を開始しました～

工事用通路（搬入路）の運用について

高架本体工事を行うために、仮線上の6か所に工事用通路を設置しました。去年の夏から、花園町の通路より順次運用を開始し、4か所で運用してきました。

今回、若林東町上り戸に設置している5か所目の工事用通路の運用を開始しました。沿線にお住いの皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いします。

<運用時間>

- ・午前8時30分から午後4時30分まで

※準備等で上記運用時間を変更する場合は、別途周知します。

<運用時の作動内容>

- ・電車通過時に警報機が鳴り、遮断機が降ります。

※夜間等の運用時間外は、作動しません



ちょっと途中下車

～地上にも橋が架かっています～

先日、地域の方とお話していると、若園小学校前の中根地下道に架かる仮線の橋りょうの話題になりました。旧線の地下道の西側に仮線の橋りょうが架かっていますが、通路から橋りょうまでの高さが低く、下から電車が通過する様子が間近に見られるのは珍しく、興味深いとのことでした。コンクリートの橋りょうが主流となっている中で、確かに珍しい構造かもしれません。この橋りょうの桁型式は「槽状桁（そうじょうげた）」と言い、鉄骨を組み合わせた桁の上に軌道を設置しています。昔は小さな川を渡る箇所などに使われていましたが、維持管理が大変なため、近年では短期間で撤去される仮線などに使用されており、知立連立でも仮線で使われています。

ところで、中根地下道とは別にもう1か所「槽状桁」が設置されている場所があることにお気づきですか。若林東町棚田の県道名古屋岡崎線（平針街道）の高架（道路）のすぐ横です。川も道路もないのではと思われそうですが、実は、県道に並行する地下道があり、その上に軌道を敷かなければなりません。仮線は今までの線路の位置から西側にずれた位置を通るため、地下のトンネルが鉄道の重さに耐えられない構造であることから、荷重がかからないように地上に橋を架けています。「槽状桁」が地面と同じ高さにあることから非常に分かりにくいですが、歩行者が安全に地下道を利用するために必要不可欠な橋りょうなのです。この「槽状桁」は、鉄道東側から確認することができます。

遠い昔、旧線の逢妻男川橋りょうの1代前の橋りょうは、どのような構造だったのでしょうか。昔を知る地域の方にお話を聞いてみたいとなりました。

街路課では工事前後の町の様子を記録しています。また「ちょっと途中下車」では、さらに昔の三河線沿線の様子をご紹介したいと考え、資料として、昔の写真を探しています。貴重な写真をお持ちの方は、ぜひ、街路課までご連絡ください。



事業スケジュール

① 用地の取得

② 準備工事

③ 工事説明

④ 仮線工事

⑤ 仮線への切替

令和5年3月

⑥ 高架本体工事開始

令和5年5月

⑦ 高架本体への切替

令和8年3月予定

⑧ 仮線撤去・側道等の整備

⑨ 工事完了

問合せ先

豊田市建設部街路課 建設第3担当
 電話番号：0565-34-6651（直通）
 FAX番号：0565-35-8196
 メール：gairo@city.toyota.aichi.jp